

私のお薦めコーナー

知事公館とメムの流路 ～古地図散歩のすすめ～

長岡大輔

古い地図を見ながら街を歩くのが楽しい。

私は、少し前に2年ほど東京で仕事をしていたので、朝会社に行く前や休日などにiPhoneで表示した明治時代初期の地図「迅速測図」を横目で見ながら街を散策するのが楽しみだった。江戸の名残りが残る130年ほど前の景色を想いながら今の東京を眺めると、何となくメガシティ東京がわかったような気になり面白かった。

札幌でも私の家の近くには「知事公館」(中央区北1西16)があり、大正時代の地図を見るとここは「三井倶楽部」になっている。その前は、森源三さんという長岡藩出身で札幌農学校第2代学長の邸宅だったようだ。



写真1 知事公館の風景

知事公館は、ゴールデンウィークから11月末まで庭園を開放していて、誰でも自由に入ることができる。ここには、広大な芝生があり、春から秋まで美しい緑が映える。芝生の隅には、白い大きな大理石(安田侃の「意心帰」)が置いてあり、この白と緑、そして秋になると紅も加わり、さらに美しさが増す。都心に近いこの場所に、のんびりと時間を過ごせる空間があるのはとても貴重で、天気の良い日には芝生で昼寝ができるほど長閑である。



写真2 知事公館の芝生と紅葉と意心帰

この場所の一角には、かつてアイヌ語で「メム」と呼ばれた湧泉のひとつがあり、そこから小川が流れていた。知事公館には今も小川があるが、残念ながら人工的に整備した川で湧水はなく、流路は敷地から出ることはない。ここに限らず、今はもう札幌でメムを見ることはできないのである。



写真3 知事公館にある小川とその源頭

でも気を取り直して、「ブラタモリ」を真似て古い地図を頼りにむかし流れていた川の跡を追跡してみよう。知事公館の周りはアスファルトとビル、容易に痕跡は見つからない。だがよく見ると、敷地の北側の道路が道を横断するように低くなっている。地図で確認すると、そこはまさに川があったところだ。さらに追跡を続けると、ビルとビルの間に何故か一

軒だけ斜めに建っている立派な家を発見。ブラタモリ風に考えてみると、この家の先代の建物はむかしの川沿いに建っていたお屋敷で、その末裔の方が今も住んでいると想像できる。この家のすぐ近くには、北海道帝国大学初の名誉教授になった宮部金吾博士の住居跡、「宮部記念緑地」もある。実はこの辺り、桑園博士町と呼ばれたところであり、当時の帝国大学の先生方のお屋敷がたくさんあったところらしい。ならば、先の想像もそう大きく外れてはいまい。これも流路の痕跡ということにして、さらに続きを探そう。



写真4 ビルの谷間に斜めに建つ一軒家

地図を見ながらその先の流路を辿ると、幼稚園の横に小さな公園が見つかる。名前は「北七条赤い実公園」とやや風変りで、中に立派なポプラの古木がたっている。これだけでは川の痕跡とは言えないが、流路があったと思われる道の脇が小高くなっていて、もしや土手の跡などと想像できるので面白い。



写真5 小高くなっている公園の道沿い

JR 函館本線を越え、さらに北に行くと北海道大学インターナショナルハウスがあり、その先が石山通である。インターナショナルハウスのあるところ

は、周囲より若干低くなっているようで、建物の並びが何故か曲線を描いている。そして、家の前には土手状の高まりが続く。この不自然さは、流路を表しているように思えてならない。これも川の痕跡としておこう。



写真6 弧を描いて建つ集合住宅と高まり

石山通から先は流路が直線になり、その大きな道路が出来てしまっているので、「メムの流路」の追跡はここまでとする。

以上のように、古い地図を片手に想像をたくましく街歩きをすると、いろいろ面白いものが見えてくる。古地図に興味のある方は、お近くの図書館に行き「札幌歴史地図」(札幌市教育委員会編)などをご覧になることをお勧めする。本格的に古地図を見たい方は、札幌中央図書館や札幌市公文書館などに行ってみると良い。ちなみに私が見ていた古地図は、大正13年発行の「札幌市街之図(視形線図)」というもので、札幌市公文書館に保管されている。

長岡 大輔 (ながおか だいすけ)
技術士(建設/応用理学部門)

株式会社 福田水文センター・琥珀舎

